

寺報 善巧

発行

〒938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山善巧寺
☎宇奈月(07656)(5)-0055

一月十二日より十六日まで
正忌報恩講
布教白山若院

慶びの春

いよいよ今年は法要の年――

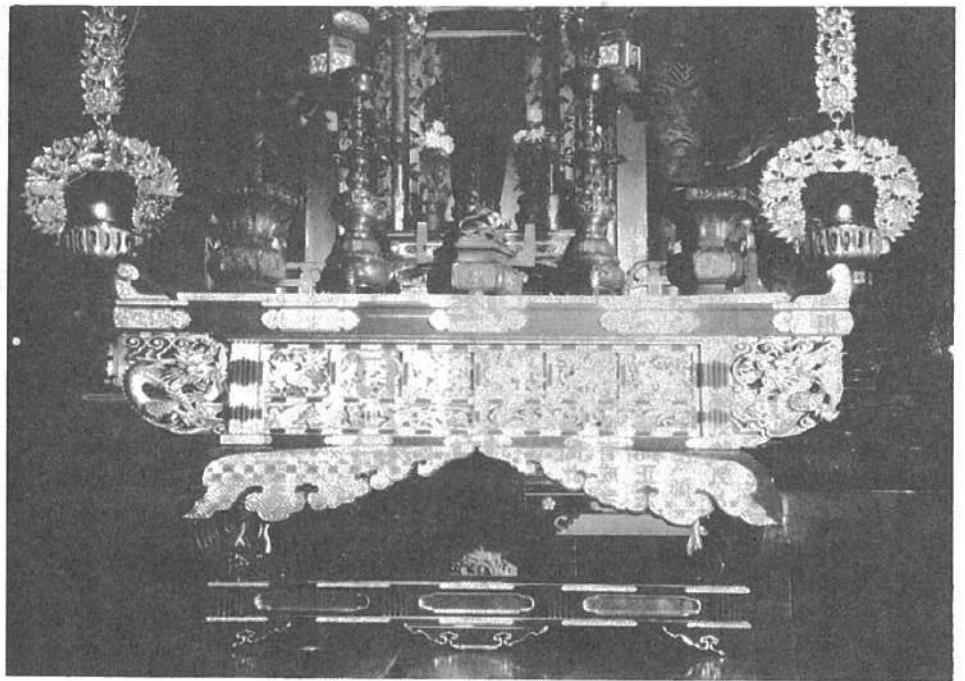
春はご門主をお迎えして、華やかに、親鸞聖人誕生八百年をお祝する慶讃大法要をおとめします。

四月二十八日は夜のお座。午後七時から、ご門主をかこんで「門信徒大会」を催します。



翌二十九日は、あさから、おのみそり、ちご行列、ご親修……とつづき、花いっぱい境内で、慶びの春を満喫していただきます。

なお、ちご行列は春の法要だけです。参加希望の方はお間違いないように……わしくは三頁と、添付の申し込み書をご覧ください。



前卓、五具足の新調になって 荘厳さを増す善巧寺の内陣

明けましてお目出度う。年頭に当り何は措いても思う事は、三法要のことです。愈々、今年、春の法要と秋の法要。二回に亘って賑々しく勤修されます。

六年前、このことを総代会議に図って以来、物心両面に於て門徒各位の御協力により、あと百十八日の後には、御門主様御親修の大法要の幕開きとなります。

御承知の如く、春の法要は、親鸞聖人御誕生八百年慶讃法要です。

御本山では、昭和四十八年三月と四月に慶讃法要が勤まつて居り、私も、善巧寺住職として出勤致しました。今も、「慶讃法要出勤之章番号百五十五番」を、記念として持つて居ります。富山別院では、昭和五十一年六月に別院復興十周年記念法要と共に、御誕生八百年記念法要が行われ、これにも出勤させて貰つて居ります。善巧寺の慶讃法要は、四月二十九日、若い御門主の御親修にて、勤修されます。時、あたかも陽春、私は、名付けて花の法要と申し度いと思ひます。親鸞聖人は、承安三年に御生まれになりました。その御誕生を御祝ひする降誕会法要は、明治二十年明如上人が本願寺御影堂で執行されたのが第一回です。その後、毎年、盛大に行われ、八百年慶讃法要で、頂きに達したと云う訳で

年頭所感

春は華やかに 秋は厳かに

しょう。善巧寺の慶讃法要を彩るチューリップの花は、昨年十一月植付けを終わり、今頃は、凍土の下で、四月の出番を待ち受けて居る事でしよう。

そして、秋、十一月は、親鸞聖人七百回大遠忌と、明教院二百回忌法要です。本山での七百回法要には、門徒百五十人と共に参拝した記憶があり、明教院百五十回忌には「明教院を偲びて」と云う小冊子を書いて居ります。秋の法要には、本年七十才の前門主の御親修です。春は華やかに、秋は厳かに。

明教院の御徳を偲ぶに一番相応わしい花は何でしょう。申す迄もなく、菊薫る十一月の、菊の花ではないでしょうか。

菊の香の 夜の屏に 合掌す 素十

秋の法要は、善巧寺を菊の鉢で飾つて、親鸞聖人の御徳を偲び、明教院の行蹟を慕い度いと思ひます。菊作りには全くの素人の私ですが、手元の「園芸ハンドブック」によると、大輪菊の栽培には、腐葉土の切返し、根分け苗の防寒と、既に一月から作業が始まるとのこと。御門主の中で、菊作り堪能の方の御援助も頂き度いと思ひます。

あと百余日、心楽しく御法要の日を迎えようではありませんか。

住職 雪山 俊之

明教院僧 銘は何を説いたか

空と筆と



明教院 僧 銘 伝

空華学轍の思想(五)

勸学寮頭 桐溪順忍師

宿善他力論

絶対他力を主張するときは、獲信の因縁である宿善も当然、如来のほたらき、仏力他力によるものといわざるを得ないのである。

この説を完成したのは行照(一七九五—一八六二)である。師の説は「宿善とは当相自力・他力」であるといわれている。

この思想は、いまだ入信せない者にとっては自力だと思っているが、獲信者の立場からいえば、宿善そのものは如来の調熟の光明に外ならないというものである。

宿善とは獲信の因縁となるものではあるが、宿とは宿世という意味であるから、厳密に言えば「前

◇宿善は往生遅速のタネか

宿善に自力・他力の異った学説の生ずる理由は、宿善を往生遅速の要因とするか、自己の獲信させていただいた慶びの上になつた因縁とするかという、基礎的な態度の相違からくるものだと思うのである。したがって、宿善そのものが自力や他力を論ずる前に、宿善とは往生の遅速の理由を説明するものか、獲信の因縁を慶ぶ心情の立場から見るとの決定が必要であり、そのいずれの立場にたつかによって、説の相違が分かれるのである。

それは「大経」の文

若人無善本(もし人、前世に善本がなければ)

たまたま行信を獲ば

遠く宿縁をよろこべ

不得聞此経(この経を聞くことは出来ない)

清浄有戒者(清い戒律を守つた者でなければ)

乃獲聞正法(この正法を聞くことは出来ない)

また「御一代記開書」(三〇七)の

陽気陰気とてあり。されば陽気をうくる花は早くひらくなり。陰気とて日陰の花は遅くさくなり。かように宿業にも遅速あり、されば己今当の往生あり。弥陀の光明にあひてはやくひらく人もあり、遅くひらく人もあり。

とある文などによって、衆生の往生について、己・今・当の往生の遅速のあるは宿善の厚薄によるものだと考える人びとがあるのである。

この人びとの考えによれば、衆生の往生に遅速のあるのは宿善の厚薄によるもので、宿善の厚いものは早く往生し、薄いものは遅く往生することになるのだと考えるのである。如来の光明は平等にはたらくのであるが、平等に照らされていながら、往生に遅速の出来るのは宿善によるものだとすればその宿善とは、人間各自の積む善根であり、自力的なものとならざるを得ないのである。だから、自力とはいわれないが「自の善」だと

◇宿善ありがたし

古来、宗学においては多くの先哲は、宿善を往生遅速の論理だと考えられて来たので、自力的な色彩が強いものがあつたが、

「教行信証」の総序に

ああ、弘誓の強縁、多生にも値いがたく、真実の浄信、億劫にも獲がたし、たまたま行信を獲ば、遠

寺 ぐよみ

一 月

- 一日 元旦会、年頭参り
- 三日 日曜学校カルタ会
- 五日 栗虫・御助成
- 六日 栗虫・報恩講
- 七日

御正忌報恩講

- 一三日 午後一時 速夜
- 一四日 午後一時 速夜
- 一五日 午前十時 子供の集い
- 午後十一時半 お講・下村
- 午後一時 速夜
- 午後七時半 初夜 おつとめ会
- 一六日 午前七時 晨朝
- 午前十時 三法要実行委員会
- 午前十一時半 お講・栃屋・熊野・浦山
- 午後一時 満座
- 一九日 浦山・報恩講
- 二七日

く宿縁をよろこべ

とあり、「御一代記開書」には宿善めでたしというは悪し、御一流には宿善有難しと申すがよく候とあるによつて、宿善とは、如来の光明であり「よろこぶべき」であり「有難し」と思うべきであり、他力であると主張するのが、空華学轍の特色だといつてよいのである。

ご門主迎えて

春の法要

四月二十八日夜「門信徒大会」 二十九日日中「慶讃法要」

慶びの春 ■宗祖誕生 800年
◇57年4月29日

■宗祖 700回忌
■明教院 200回忌
◇57年11月3～5日

聞法の秋

門信徒の
総意を結集
した三法要
実行委員会
(委員長、
住職、門徒
代表、橋場
啓次氏)は
さる十月十
九日に発足
し、毎月二
回(一日と
十六日のお
講の日)の
会合をもち

目前にせまった法要の準備、段取
について、熟っぽい論議を交わし
ています。これまで五回にわたっ
ての会合ではほまとまった「春の
法要」の概略は次の通りです。

◇四月二十八日(法要前日)
門信徒大会
午後七時～九時
大谷光真門主を
お迎えしての話し合いの集いです。
おつとめのあと聞法と実践をテー
マに、お経の会や日曜学校、婦人
会、夢を語る会、世話方、総代さ
んなどの代表者に意見発表をして
いただき、ご門主からおことばを

三法要実行委で準備すむ

いただきます。この日はいわゆる
「お初夜さま」だと思っていただ
ければいいでしょう。

◇四月二十九日(法要当日)
おかみそり 法要に先立って
ご門主の手によって帰敬式が行わ
れます。浄土真宗の門徒のたしな
みとして、また自覚をうながすこ
縁として、おかみそりをうけ法名
をいただく下さい。受式料は三
千円で、係りは照行寺・神子さん。
おちこさん 法要にはなやかな

色どりをそえるおちこさんは二十
九日の午前中です。秋の法要には
ありませんので、お間違いのない
ように。冥加
金は六千円。
お弁当二人分
と記念品、お
たのしみ券、
寺への志も含
まれています。
係りは法輪寺、
高島さん。



法要・記念講演 おねりは宇奈
月中央公民館から出発します。ご
親修法要がおおると、ご親教をい

以上春の法要の概略です。ご案内
は後日、おちこさんとおかみそりの
申し込みは二月末日までお早目に。
また、法要の案内を「いはい」
「まご門徒」の方へもと思いますが、
住所がわかりません。心ある方は
近くの総代さんまでご連絡下さい。

を

おかげさま 困った言葉
だなあと思うんです。
もちろん、近頃すべてが、おか
げさまよりおカネさまの時代だか
ら、ご恩をよろこぶ心を取り戻す
ためには、おかげさま運動もけっ
こうかとも思います。

しかし、この言葉はかなり抽象
的で、なんでもかでも「ハイ お
かげさまで」といつときやすんで
しまつて、具体性に欠けた単なる
あいさつになっているんじゃない
でしょうか。それならむしろ、こ
んな言葉はない方がいいと思うん
です。

現に、外国にはこれに類する言
葉はないみたいで、先日テレビで



みたアカデミー賞授賞式のもよう
でも、授賞者はみんな具体的に人
や会社の名を長々とあげて感謝の
意を表していました。中でも、主
演男優賞をもらったダスティン・
ホフマンのあいさつは秀逸で「私
ユーというて終わった。
これが祈りというもののじゃない
かと思いましたね。いかがです。
あなたもやってみましょうよ。お
かげさま、と片付けしないで、今、
ここに生きている私は、一体、何
によって生かされ、だれによって
生かされているのかということ
を、一つ一つ具体的に名をあげ
て、もう一度、味わいなおしてみ
ましょう。

わ

わかる 分かる、解るな
どと書きます。ワカッタ
ワカッタなど使います。国語学
者の岩瀬悦太郎さんに聞いたこと
であります。この分かるも解る
も語源は刀で切りわけ、という
まわして、相手かまわずパツタバ

少しくも自分をわかつたと思わ
れるのなら、まず外に向かった刃
を内に向けて、自分自身を切りき
さんでみなくてはなりません。

(雪)

善巧寺門徒年忌一覽

- 〔一周忌〕川内治太郎（1・4）佐々木仁作（1・18）朝倉孫石（妻、1・18）谷川正明（姉、1・18）大藪敬三（妻、3・6）開沢信義（母、5・8）島田榮吉（5・26）丸田梅作（6・12）島田清一（6・12）柄沢重盛（母、6・17）田中静治（6・23）谷川忠三（6・27）佐々木藤松（母、7・20）山本九作（7・20）川口武（8・15）野崎正次（8・16）鬼原武義（9・9）浦滝義松（母、10・1）川瀬常次郎（10・16）佐々木隆（11・28）
- 〔三回忌〕本波孝（母、2・26）島田博嗣（姉、3・23）橋本良造（3・29）河村幸作（母、4・10）西田敦子（祖母、4・27）久田新作（5・15）川内彦義（母、6・6）中坂石次郎（6・29）開沢庄作（妻、8・5）高島文夫（9・3）島田信夫（母、9・4）西中勝（10・21）橋場孝正（母、10・27）長沢幸一（11・11）開沢甚作（11・18）佐々木二作（妻、11・22）
- 〔七回忌〕宮崎俊夫（母、1・24）加藤友司（母、1・30）佐々木甚之助（2・1）川瀬勇作（妻、2・4）有馬和夫（妻、2・7）島田栄松（妻、同）佐々木隆（次男、2・18）佐々木二太（妻、2・24）朝倉六松（3・19）谷川長作（3・24）棚良造（3・25）中村石次郎（妻、4・14）大藪久男（4・15）佐々木三作（妻、4・30）佐々木才吉（5・8）本波貫一（孫、5・16）板川啓三（母、6・18）橋伊三（7・26）谷口源太郎（8・3）上坂利平（8・16）佐々木外一（8・18）柄沢菊次郎（10・1）
- 佐藤宗吉（10・20）橋爪ちよ（11・9）川瀬勇作（11・28）丸田耕一（12・22）野田むら（12・25）佐々木隆一（母、同）
- 〔十三回忌〕福沢五郎（母、1・23）尾沢初雄（母、1・23）佐々木与左門（母、1・26）橋場年治（1・29）板川広作（2・1）岡田嘉太郎（母、2・11）柄沢征太露（2・22）沢田正（3・3）丸田助（3・28）藤沢善作（3・31）朝倉輝雄（母、同）川内竹次郎（妻、4・13）川内七之助（4・14）野島敏之（6・10）谷口健次郎（7・6）大藪長造（7・15）佐々木盛二（妻、8・10）開沢豊二（8・31）橋爪勇吉（9・23）鬼原米作（10・7）柄沢清次郎（同）橋場東作（妻、10・29）本波喜太郎（11・5）根塚幸作（11・27）河村鉄造（11・28）川原栄作（11・29）佐々木作松（妻、12・4）佐々木市太郎（妻、12・7）嶋田健治（12・9）中坂一郎（長男、12・10）鬼原貞子（12・16）鬼原勝次（妻、12・17）丸田力（母、12・30）
- 〔十七回忌〕大藪巖（1・9）佐々木七造（1・31）佐々木市太郎（2・16）佐々木文一（2・21）清水久作（孫、3・2）橋作二郎（妻、3・15）佐々木九郎作（妻、3・16）山本繁治（3・17）佐々木虎次郎（4・10）丸田元作（4・17）佐々木貞坊（4・19）西中勇一（母、5・1）佐々木貞義（母、5・6）福沢栄作（母、5・23）朝倉浅吉（妻、5・30）橋伊之助（6・4）佐々木鉄男（6・20）島田博嗣（長男、7・25）藤沢常次郎（8・27）中林三太郎（孫、9・6）清水重作（9・7）根岸文左門（母、9・20）川瀬義雄（妻、同）大野茂八郎（10・10）大藪助雄（妻、10・29）佐々木武（11・1）橋伊三（長男、11・6）東狐正孝（祖母、11・24）川内由太（11・28）板倉作二郎（12・28）
- 〔二十三回忌〕中村宇之助（妻、1・9）開沢彦左門（母、1・11）川内小左門（1・18）柄沢半七（妻、2・24）佐々木市郎右門（妻、3・1）大藪国康（父、同）島田伊右門（妻、3・9）橋安次郎（3・12）嶋田松伊（父、3・18）佐々木徳造（3・20）大浦和左門（3・25）山下順（同）佐々木金太郎（妻、3・30）大藪忠一（妻、4・20）本波仁作（母、4・30）柄沢栄吉（5・18）川瀬茂（孫、6・12）本波金造（7・23）佐々木三太郎（7・26）橋場清造（8・8）板谷忠治（母、8・15）清水久一（母、9・10）藤沢清右門（母、9・12）佐々木隆吉（父、9・29）山根清一郎（孫、10・29）本波栄正（11・1）清水重作（妻、11・10）佐々木米松（12・2）
- 〔二十七回忌〕大藪冬藏（1・7）浦田安次郎（妻、1・8）浦崎弥三（1・15）野崎安平（2・8）川内彦三郎（孫、2・10）野崎吉次郎（妻、2・16）沢木伊左（3・8）佐々木虎松（娘、3・12）橋場兵四郎（3・18）大浦政男（母、3・31）橋場兵四郎（母、4・1）島田藤右門（4・7）橋場兵造（妻、4・16）樽井五三郎（母、6・2）橋場良造（6・3）板倉由次郎（7・4）沢田喜一（7・14）川内小左門（次男、7・16）上野初次郎（8・30）佐々木次郎（長女、9・3）丸田清作（父、9・4）高島彦一（9・20）谷川彦平（母、9・22）藤沢伊次郎（10・3）川口仁作（母、10・4）川内幸夫（同）板川啓三（三男、10・9）佐々木市三郎（10・11）野崎吉造（10・27）柄沢半七（父、10・31）鬼原勝次（母、11・21）佐々木与助（孫、11・22）川内盛義（妻、12・17）
- 〔三十三回忌〕野崎与五郎（1・4）高島彦次郎（四男、1・14）川内栄次郎（長男、同）上坂伊作（母、1・6）川内七之助（2・23）丸田清造（2・24）丸田梅次郎（2・25）佐々木清之助（同）佐々木宇遊（同）舟屋幸助（3・3）島田次平（妻、3・9）丸田秀由（長女、3・14）本波元吉（3・15）佐々木清六（母、同）高島彦一（妻、3・20）川内長太（3・25）板谷庄右門（長男、3・28）開沢安次郎（次男、4・5）川内武次郎（妻、4・8）佐々木藤作（八男、4・18）中林市三郎（4・24）藤沢豊（長男、5・7）大藪義悦（長男、5・16）開沢佐右門（三女、5・28）上坂利平（七女、6・7）川口清吉（6・12）川瀬勇三郎（母、6・21）川内善四郎（五男、6・13）川内武次郎（四男、8・3）野畑政治（9・1）浦田留之助（長女、9・7）佐々木仁左門（9・12）大島幸助（9・29）岡田与造（母、10・15）島田清次郎（三男、10・31）浦田寅次郎（母、11・15）山本宗作（孫、11・19）佐々木甚之助（母、11・21）上野与三吉（母、11・23）山本市次郎（母、12・5）中山喜右門（妻、12・11）
- 〔五十回忌〕板谷庄右門（母、1・5）鬼原次作（孫、1・10）山本庄三郎（母、1・11）野崎与五郎（3・4）上坂利平（娘、3・9）佐々木与左門（妻、3・19）尾村彦次郎（妻、4・1）福沢宇之次郎（六女、4・4）浦山三太郎（長男、4・15）柄沢半吉（母、4・22）高島市次郎（父、5・3）根岸元吉（6・2）本波元右門（孫、6・12）大藪文助（母、7・7）佐々木安兵衛（娘、7・15）佐々木虎一（母、8・8）瀬川長右門（妻、8・18）佐々木弥左門（妻、9・20）河村仁左門（娘、9・27）山本清吉（四男、10・5）西中市左門（母、10・11）丸田清造（妻、12・13）
- 〔百回忌〕佐々木半右門（孫、1・1）橋本彦三郎（妻、1・27）丸田次郎右門（孫、4・28）大野宗右門（孫、5・23）丸田六右門（母、5・27）佐々木太郎右門（妻、6・12）佐々木次郎八（男、6・19）佐々木平助男、6・20）中村庄兵衛（8・16）松平源右門（8・19）板宗三郎（9・12）西田温良（孫、9・13）大窪宗次郎（父、9・26）川内次郎七（娘、9・27）谷口太右門（男、9・29）野崎吉郎右門（孫、9・19）岩崎林右門（9・30）太田清助（10・22）浦滝伝四郎（孫、11・11）山本彦左門（11・13）佐々木仁三右門（母、12・1）橋場仁三太郎（12・9）嶋田九兵衛（母、12・13）



変わりました境内の景観

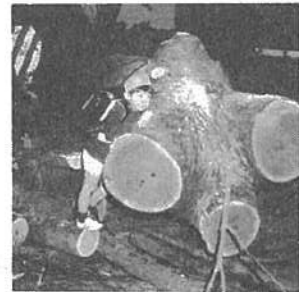


経蔵移転

おや？ なんとなく、境内が明るく、すっきりしたんじゃないですか——そういわれます。

法要を迎えるにあたって、最後の国土莊嚴——つまり環境整備をいたしております。

境内に大きく広がっていたケヤキと杉五本を伐さしめて、お経蔵を動かしました。境内を広く機能させるために



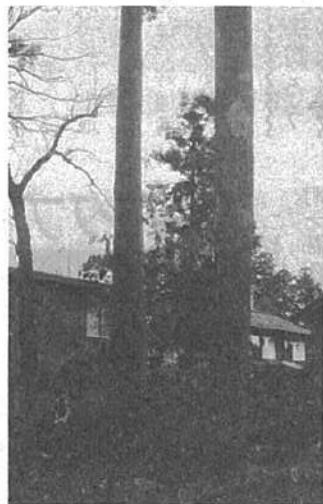
ありがとうケヤキさん

です。

そしてそのケヤキと杉のおかげで、寺の車を納めるガレージも門前のつり鐘のとなり出来ることになりました。ここは、法要の折には臨時の受付、案内所にも利用されます。いまはワゴン板にかこまれています。

が、春にはお寺にお似合いの車庫が目見えするでしょう。

そして、境内の排水、参道の舗



さようなら大杉さん

装：三法要実行委員会の発足のおかげで、最後の準備事業が、じつにスムーズに進められております。

十二月二十七日現在、経蔵はシートをかぶってかべぬりの段階。

車庫は外わくをはずせるか……というところ。お正月参りの足元はまず大丈夫、となりました。

十二月十三日 日曜日 曇時々雪。

七時起床、雪もよいの曇空。昨日クレーン車で移転した経蔵が、昔からの位置にあったように落着いて見える。銀杏樹は一葉も残さず散り盡し、本堂の雪囲いも、冬到来を思わせる。下村からの寺詣りの衆と雑談数刻、十時半。迎えるの自動車にて法事の宅に向う。手袋、頭巻、長靴と、久方振りの重装備。

五尊様を迎えての「ごねんき」で、詣りの衆も座敷一杯に詰め掛けている。

長押には、表彰状の類が二十近くも掛けられて居り、農業委員勤務から、白葱栽培に至る迄、主人の篤農家としての人生を語っている。



住職日記

る。前座は「大師影供作法」終つて「おしのぎ」の握り飯を頂く。芋と大根の煮付、甚だ美味なり。障子の外は、雪。此処数日早朝の寒気甚しく、ひよっとすると、これが根雪になるかも知れない。庭の小菊も葉が萎れかけている。外の寒さに引き換え部屋の中は暖気満々。六親眷族集まつての「ごねんき」の賑はしさである。今日の法要の仏様は、四。

そのうち二は明治の歿年で、勿論顔の見覚えはない。主人も明治末期の生まれの筈、着飾つた若夫人達子供達に混つて明治生まれは寥々たるもので、「明治は遠くなりに

読経終つて「広懺悔」「略懺悔」。約二時間で、勤行終了。膳の席に付くもの五十名を超える。次々と盃を差しに来るが若い人の数が増え、名前を聞かぬと判らぬ人が多

い。酒宴は賑やかに進行するが、私の食膳には、酒の入つたままで返盆出来ぬ盆の林立である。暗くなって、座を立ち、車に乗る。雪は思った程ではなく、既に止んでいる。疲れたので、早々に床に就く。此の頃の癖で、酒のあと、二時間程熟睡したら、目が覚めて了つて眠れぬ事が多い。そんな時、昔なら書斎に降りて仕事をしたものだ、此処数年は、床の中で何となく物を考えている。幸いにテレビの名画劇場で「ローマの休日」をやっている。とうとう、最後まで面白く見て知らぬ間に眠つて了つていた。

喚鐘の 冬空高く響きけり
法座 賑やか
山盛蜜柑 鮮やかに

一 日 お講・消山 実行委員会
一六 日 お講・太子会
二〇 日 お講・三法要理事会
二八 日 雪ん子劇団春の公演

寺
ごよみ

三 月

一 日 お講・浦山 実行委員会(午前十時)
三 日 市・報恩講
四 日
五 日
九 日
一〇 日 生地・報恩講
一六 日 お講・下立 実行委員会
一七 日
一八 日 下立・報恩講
二二 日 舟見・報恩講
二五 日 入善・泊・報恩講
二七 日 栃屋・熊野・報恩講

寺
ごよみ

二 月



ご 寄 進

卓 前 の 望 待

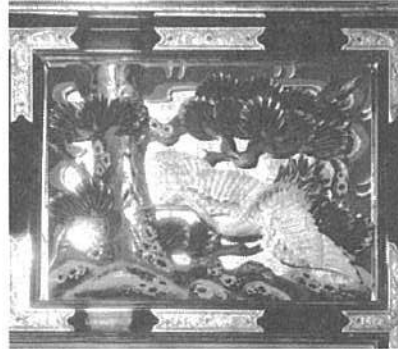


本波貫一、佐々木虎松、小林久吉、中林富男、中林与市、中林ふさ、谷川正明、

十月の報恩講に新装な呼びかけてわずか三カ月の間に次の方々にご寄進をいただきお満座の席で感謝状を贈らせていただきました。敬称は略します。

巻障子新装

谷川ひな、谷口源作、河村みさを、北川トキエ、尾沢徳蔵、松平源治、上坂好次、岡田清次郎、山本浅次郎、中門徒中、柄沢重盛、藤沢正雄、浦山久雄、板川夏枝、開沢茂、岡田嘉太郎、谷口義弘、植木幸次郎、中山慶太郎、藤沢徳次郎、沢田慶太郎、門英志、橋爪正義、大藪トキエ、藤沢政次、川内ちよ、大浦つた、佐々木栄、谷梅枝、大藪昌枝、鬼原勝次。以上の方の名は巻障子裏に記入することになっています。



が写真の白鶴です。これにちなんで全門信徒の婦人会「白鶴会」を結成し、内陣莊嚴のご寄進に協力願うと同時に、開法の集いや尼お講の復活をと考えています。

白鶴会結成を呼びかける

發起人の方は柄沢はる、本波ひさ、朝倉さくら、田中まつえ、音沢有志、北川トキエ、大藪トキエ、浦滝はなえ、尾沢はな、鬼原つか、鬼原よしえ、鬼原マツエの皆さんです。より多くのご参加を！

の仏具のご寄進は目下、門信徒の婦人方を中心にしてお願いしております。六鳥型というのは仏説阿彌陀經に出てくる極楽の六種の鳥のことで、その最初にあるの

門信徒婦人の手で

本堂内陣中央に美しい前卓がはいりました。本うるみ仕上げ六鳥型で横巾七尺。高価なこ

五 具 足

戦時中に供出したあと、代用のセメント製の五具足をこれまで使っていました。が、やっとなつとすば



菱型灯ろう黒川仏壇センターさん。内陣の金柱と巻障子の新装という大仕事を無事にすませて、記

菱型灯ろう



らしい一尺ものの六角型宣徳の五具足が前卓の上におさまりました。香炉は柄屋の野畑一雄さん、花瓶一対は生地船屋幸吉さん。蠟燭立一対(四八万円)は、寄進者がまだ決まっておりますが...

善巧寺の常例行事

お 婦 壮 雪 日 お	経 人 年 子 曜	の 会 会 会 校 講
第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日
毎月 第二土曜日	毎月 第二土曜日	毎月 第二土曜日
毎月 第四日曜日	毎月 第四日曜日	毎月 第四日曜日
毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日	毎月 第一・第三土曜日

念に！と本堂外陣中央に、りつぱな灯ろう型の照明器具を。

法名軸三幅目へ

内陣法名のお軸は二幅目がすべて埋まり、今年から三幅目になります。軸の大きさと余間のスペースの関係で、三幅目から法名を記入するワクが少々小さくなります。

雪ん子ダブル表彰



ことばの教室「雪ん子劇団」が町と郡の公民館連絡協議会からダブル表彰をうけました。日頃のユニークな活動が認められたもので昨年は県大会で賞をとり、そのあと上市小学校文化祭に出演するなど大活躍でした。

合 掌

春の法要は四月二十九日です。前夜の二十八日に門信徒大会を開らき、二十九日は午前中、おのみそり、おちこさん、法要、記念講演とつづき、午前は花いっぱい境内で園遊会が催されます。

と、田んぼは一番いそがしいときでもありません。「秋にまめれば」とか「春は出にくい」とか、いろいろとご意見承りました。

しかし、最終的には、三法要理事会で春四月二十九日、秋十一月三、四、五日と決定し、春はご門主、秋は前門主をお迎えしてまたとない善巧寺の三法要を成功させようということになりました。田植の段取りは正月にお決めになるものとうかがっております。どうか、新しいカレンダーの四月二十九日は天皇陛下の赤丸の上にもう一つ「花丸」をつけて、善巧寺春の大法要と書き込んで、いまから、万障繰り合わせておいて下さいます。心からお願いいたします。

